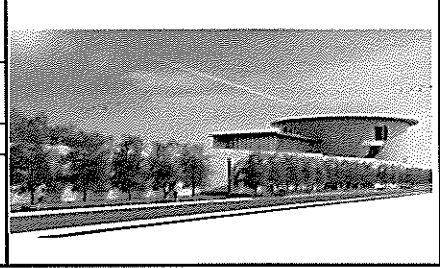


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	永守重信創業記念館整備計画	階数	地上3F
建設地	京都府向日市森本町野田100,101,102	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年11月27日
敷地面積	6,120 m ²	作成者	田原 正寛
建築面積	2,342 m ²	確認日	2026年1月28日
延床面積	3,676 m ²	確認者	田原 正寛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

環境品質 Q (縦軸) vs 環境負荷 L (横軸)

2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEE+で表示しています。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 3.5	Q2のスコア = 3.6	Q3のスコア = 3.4
音環境: 3.0, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 4.2, 空気質環境: 3.8	機能性: 3.9, 耐用性: 3.6, 対応性: 3.4	生物環境: 3.0, まちなみ: 4.0, 地域性: 3.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.4	LR2のスコア = 3.3	LR3のスコア = 3.2
建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 2.9, 効率的: 3.6	水資源: 3.4, 非再生材材の: 3.2, 汚染物質: 3.1	地球温暖化: 3.4, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
設計における総合的なコンセプト 本施設は、企業の創業から現在までの歩みを記録・展示するための建物である。建物は一般に公開するもので、起業の精神の学びを求める人々に何かのヒントを掴まれることを期待する。	
Q1 室内環境 空気質環境について内部仕上げは全てF☆☆☆☆となる建築材料を採用する。建物内に良好な換気が行えるように、居室の換気量を30m ³ /h・人とした。	Q2 サービス性能 更新間隔の長い配管材を採用する。 更新間隔の長い主要内装仕上げ材を採用する。
LR1 エネルギー ナイトバージ機能付の全熱交換器を採用	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用し、水資源保護に配慮している。
	LR3 敷地外環境 近隣への配慮を行った計画としている。照明設備において、外へ漏れる光が少なくなる器具の選定及び配置を計画している。

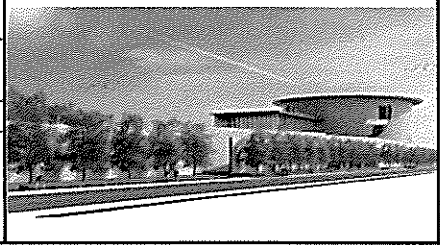
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	永守重信創業記念館整備計画	階数	地上3F
建設地	京都府向日市森本町野田100,101,102	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年11月27日
敷地面積	6,120 m ²	作成者	田原 正寛
建築面積	2,342 m ²	確認日	2026年1月28日
延床面積	3,676 m ²	確認者	田原 正寛



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レダ-チャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 87%</p> <p>③上記②以外の 83%</p> <p>④上記+ 83%</p> <p>(kg-CO₂e/年・m²)</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>	<p>3(保健) N/A</p> <p>4(教育) N/A</p> <p>5(エンター) N/A</p> <p>6(水・衛生) N/A</p> <p>7(エネルギー) N/A</p> <p>8(経済・雇用) N/A</p> <p>9(イノベーション) N/A</p> <p>11(都市) N/A</p> <p>12(生産・消費) N/A</p> <p>13(気候変動) N/A</p> <p>15(陸上資源) N/A</p> <p>17(実施手段) N/A</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q: 環境品質 Qのスコア = 3.5		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.4

LR: 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 設計における総合的なコンセプト 本施設は、企業の創業から現在までの歩みを記録・展示するための建物である。建物は一般に公開するもので、創業の精神の学びを求める人々に何かのヒントを掴まれることを期待する。		
Q1 室内環境 空気環境について内部仕上げは全てF★★★★となる建築材料を採用する。建物内に良好な換気が行えるように、居室の換気量を30m ³ /h・人とした。	Q2 サービス性能 更新間隔の長い配管材を採用する。 更新間隔の長い主要内装仕上げ材を採用する。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺のまちなみや景観に配慮し、緑化計画を行っている。
LR1 エネルギー ナイトバージ機能付の全熱交換器を採用	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用し、水資源保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 近隣への配慮を行った計画としている。照明設備において、外へ漏れる光が少なくなる器具の選定及び配置を計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される